



XLS DriveCore Series パワーアンプ

# XLS 1000, XLS 1500, XLS 2000, XLS 2500



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。  
安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。  
この取扱説明書は、お読みになった後も、いつでも見られるところに保管してください。

# ■ 安全上のご注意

取扱説明書には、お使いになる方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

 <b>警告</b>
<p>人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必ず AC100V(50Hz/60Hz) の電源で使用してください。異なる電源で使用すると火災や感電の原因となります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必ず専用の電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり危険です。また、同梱された電源ケーブルは、他の機器に使用しないでください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電源ケーブルの上に重い物をのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。ケーブルが破損して火災や感電の原因となります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 確実にアース接続をしてください。また、アース線の脱着は電源を外してから行ってください。感電の原因となります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 濡れた手で、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は、内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 煙がでる、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常が起きたときは、ただちに電源を外し修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。</li> </ul>

 <b>注意</b>
<p>人が傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される内容です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 必要な電流容量を安全に供給できるよう、適切な電源回路を用意してください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機器の重量に耐える強度を持った安定した場所に設置してください。また、ラックに設置する際は、前面パネルだけでなく背面パネルも固定してください。落下によるけがや故障の原因となります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 以下のような場所には設置しないでください。火災や故障の原因となります。 直射日光のあたる場所 / 極度の低温又は高温の場所 湿気の多い場所 / ほこりの多い場所 / 振動の多い場所</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通気性の良い場所に設置し、機器の吸気口や排気口は絶対に塞がないでください。熱がこもって、火災や故障の原因となります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 機器の移動は、電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルを全て外した上で行ってください。けがやケーブルの破損の原因となります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他の機器との接続は、機器の電源を全て切ってから行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、各機器の音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴覚障害や機器の破損の原因となります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● スピーカーの破損を防ぐため、電源を入れるときは一番最後にこの機器の電源を入れてください。また、電源を切るときは一番最初に電源を切ってください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出力の配線は、電源を切ってから10秒以上たった後で行ってください。また、出力ケーブルがシャーシや他のケーブルとショートしないよう十分注意してください。感電や故障の原因となります。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大きな音量に連続してさらされると、聴覚障害の原因となります。音量の設定は慎重に行ってください。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長時間使用しないとき、または落雷の恐れがあるときは、電源ケーブルを取り外してください。火災や感電、故障の原因となります。</li> </ul>

使用上不明な点や動作上問題があると思われるときは、ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div. にお問い合わせください。

ヒビノ株式会社  
ヒビノプロオーディオセールス Div.  
〒108-0075 東京港区港南 3-5-12  
TEL:03-5783-3110 FAX:03-5783-3111  
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

## 目次

各部の名称と機能 .....	4
コネクタへの接続 .....	5
クイックスタートガイド	
Stereo Bypass Mode (ステレオバイパス モード) .....	5
Bridge-Mono Mode (ブリッジモノ モード) .....	6
Crossover Mode (クロスオーバー モード) .....	6
HighPass Mode (ハイパス モード) .....	7
LowPass Mode (ローパス モード) .....	7
クロスオーバー & リミッター .....	8
メニュー・ツリー .....	9
仕様 .....	10

## 製品の特長

プロの現場で定評のあるアムクロンのテクノロジーを結集し、パワーとフットワークを兼ね備えた先進のSR用パワーアンプです。小規模なライブハウス、クラブから中小規模の設備まで、用途や会場に応じて効率的なシステムを構成できます。

### ●超軽量設計

各モデルとも極めて軽量。

電源部に高効率なスイッチング電源回路を投入することで、出力パワーを妥協することなく徹底した軽量化に成功。

移動・運搬がスムーズに行え、複数台を設置する場合でも、設置床面の耐荷重の負担を軽減。

### ●新技術 “DriveCore™”

発電機や照明器具などの周辺機器の影響で不安定になった AC 電源下でも常に安定した動作を確保。

仮設の現場など過酷な環境においても、圧倒的な出力性能を最大限に発揮。

### ●PureBand™ クロスオーバー

・高精度の Linkwitz-Riley フィルターで高域 / 低域ドライバー間のシームレスな分割を実現した PureBand™ クロスオーバーを搭載。

・50Hz ~ 3kHz の間で 1/12oct ごとに任意のクロスオーバーポイントを設定可能。

・クロスオーバー / ローパス / ハイパス / ブリッジという 4 つのプリセットを用意。

### ●Peakx™ リミッター

歪みの発生やシャットダウンをほとんど起こさずにスピーカーを保護。

## 保証について

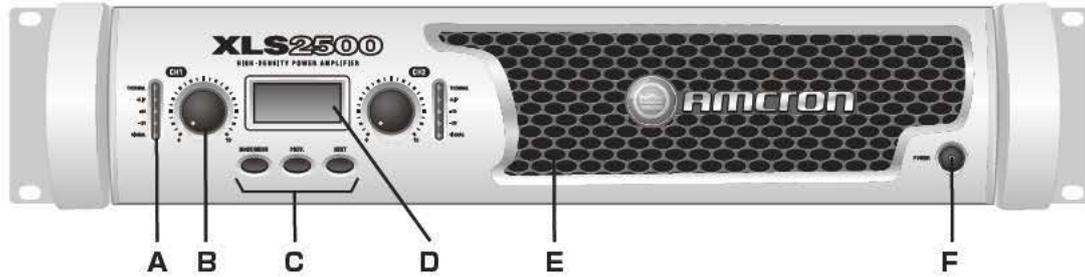
- ・保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より3年間は保証期間です。保証書記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
- ・お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」が正しく記入されていない場合は、保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不十分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
- ・改造など通常の使用範囲を超えた取扱いによる故障や、設計・製造以外の要因で起きた不都合は期間内であっても保証の対象外となります。

## 故障かな？と思われる症状が出たときは

こちらの取扱説明書をもう一度お読みになり、接続や操作などをご確認ください。それでも改善されないときはお買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

## 各部の名称と機能

### 前面パネル



#### A. インジケーター (各チャンネルに1系統)

Thermal インジケーター:

過熱状態になるとLEDが赤く点灯します。

Clip インジケーター:

出力が過負荷状態になると、LEDが赤く点灯。常に点灯しているときは、出力レベルを下げてください。

-10 インジケーター:

出力がクリップレベルの-10dB前を超えると緑のLEDが点滅。

-20 インジケーター:

出力がクリップレベルの-20dB前を超えると緑のLEDが点滅。

Signal インジケーター:

-40dBu以上の入力信号があれば緑のLEDが点滅。

#### B. レベルコントローラー (各チャンネルに1系統)

クリック付きの回転式レベルコントローラーです。

#### C. Menu/Prev/Next

液晶画面上のメニュー項目の操作に使用します。

#### D. バックライト付き液晶ディスプレイ

クロスオーバー、モード、リミッターの設定状態を表示。

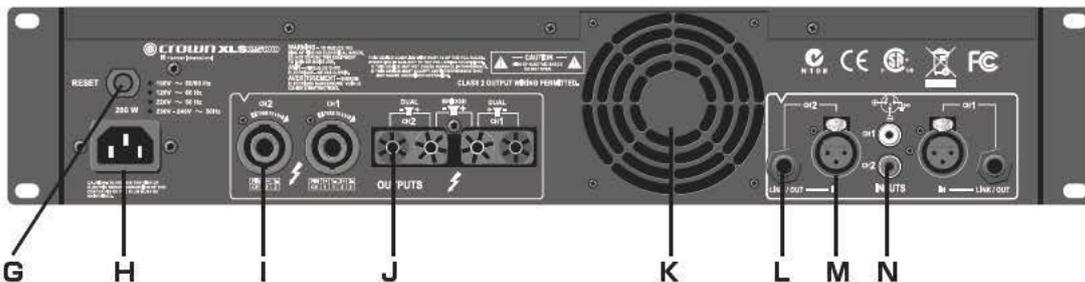
#### E. グリル

冷却ファンの空気の吸い込み口です。絶対にグリルをふさがないでください。

#### F. 電源スイッチ

パワーアンプをオン / オフします。

### 背面パネル



#### G. リセットボタン

ブレーカーをリセットします。

#### H. 電源入力コネクター

電源ケーブルを取り付けます。

#### I. スピコン (Speakon) 出力コネクター

ノットリック製 NL4MP スピコン端子 (NL4FC に適合)。CH1 のスピコンは、1つのコネクターで両チャンネルに接続できます。CH2 は、チャンネル 2 の接続が可能。(次頁「コネクターへの接続」参照)

#### J. バインディングポスト出力コネクター

スピーカーを接続するコネクターです。バナナプラグ、スペードプラグ、先バラケーブルで接続できます。(次頁「コネクターへの接続」参照) スピコンと並列になっています。

#### K. ファン

空気を前面から吸い込み背面へ送り出し、本体を冷却します。

#### L. 標準フォーンコネクター (各チャンネルに1系統)

標準フォーンコネクター。音声信号を入力します。

入力コネクターからの信号を他のアンプへリンクするための LINK / OUT 端子としても機能します。

#### M. バランス XLR 入力コネクター (各チャンネルに1系統)

3ピンメス XLR コネクター。音声信号を入力します。(次頁「コネクターへの接続」参照)

#### N. RCA 端子 (各チャンネルに1系統)

RCA コネクター。音声信号を入力します。

# ■ コネクターへの接続

## バランス XLR 入力コネクターへの接続

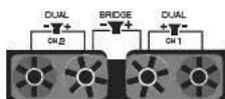
バランスケーブルの場合



アンバランスケーブルの場合



## バイディングポストへの接続



先バラケーブル、バナナプラグの2種類を接続できます。

- 先バラケーブルの場合  
ノブをゆるめ、絶縁部をはがしたケーブルを穴に差し込み、しっかりしめつけます。
- バナナプラグの場合  
ノブを強くしめてから差し込みます。

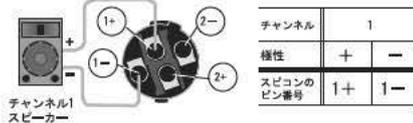
## スピコン出力コネクター



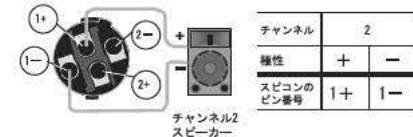
※スピコンを使用する場合、次の2通りの方法があります。どちらかの方法を選択してください。

① 両方のコネクターを使用し、チャンネル1とチャンネル2にそれぞれスピーカーを接続します。

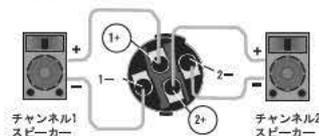
●上のコネクター (チャンネル1)



●下のコネクター (チャンネル2)

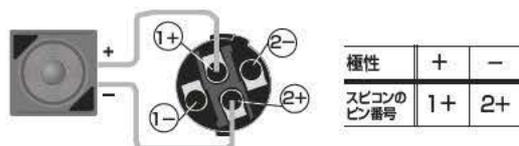


② 右のコネクター (チャンネル1) のみを使用し、チャンネル1とチャンネル2にそれぞれスピーカーを接続します。



## ※スピコンを使用してブリッジモードでドライブする場合

右のコネクター (チャンネル1) のみを使用し、チャンネル1+とチャンネル2+にスピーカーを接続します。

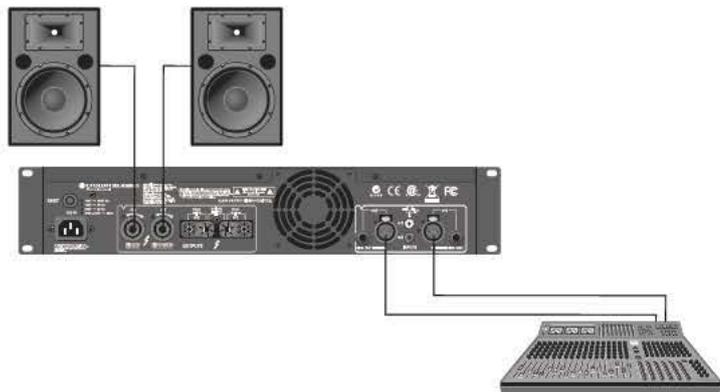


# ■ クイックスタートガイド

## ● Stereo Bypass Mode (ステレオバイパス モード)

工場出荷時の設定です。PureBand™クロスオーバーは、機能していません。

1. 標準フォンコネクター、XLRコネクター、RCAコネクターのいずれかを使用して左右の音声信号をチャンネル1とチャンネル2に接続します。
2. スピコン、バナナプラグ、先バラケーブルのいずれかを使用してスピーカーに接続します。



## ■ クイックスタートガイド (続き)

### ● Bridge-Mono Mode (ブリッジモノ モード)

ブリッジモードでドライブするときは、ステレオモードの2倍の出力電圧で、1つのスピーカーをドライブします。

- ※ スピコン出力コネクタの1チャンネルのみを使用し、スチャンネル1のレベルコントロールのみを使用します。
- ※ バインディングポスト出力コネクタを使用する際は、音が歪むため黒のターミナルは絶対に使用しないで下さい。
- ※ 接続可能な負荷インピーダンス(スピーカー)は4Ω以上です。



まず以下の項目を確認してください。

1. チャンネル1の標準フォーンコネクタ、XLR コネクタ、RCA コネクタのいずれかを使用して音声信号を入力します。
2. いずれかの方法でスピーカーに接続します。
  - a) バインディングポスト出力コネクタを使用する場合は、赤いターミナルを両方使用します。チャンネル1の赤いターミナルが + (プラス)、チャンネル2の赤いターミナルが - (マイナス)になります。(p.5「コネクタへの接続」参照)
  - b) スピコン出力コネクタを使用する場合は、チャンネル1のみを使用します。チャンネル1+とチャンネル2+にスピーカーを接続します。(p.5「コネクタへの接続」参照)

#### 『ブリッジモノモード』の簡単な設定方法

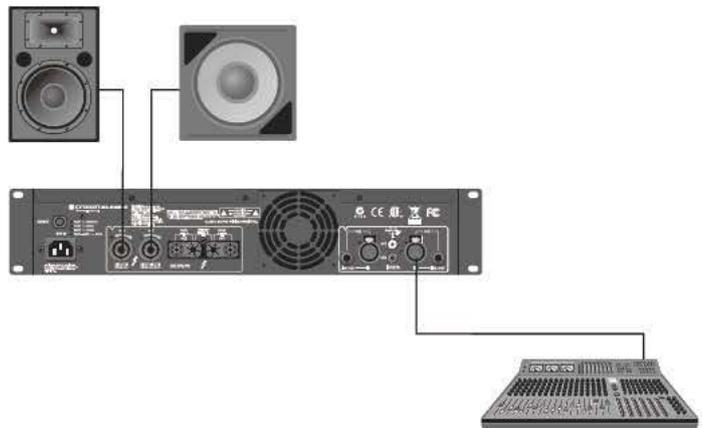
1. 液晶ディスプレイに "Amp Mode<More>" と表示されるまで、"Mode/Menu" ボタンを約3秒間長押しします。
2. "Mode/Menu" ボタンを押して、アンプのモードを設定します。
3. 液晶ディスプレイに "Mode: Bridge" と表示されるまで、"Next" ボタンを押します。
4. "Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。
5. 液晶ディスプレイに "Bypass" と表示されるまで、"Next" ボタンを押します。"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。液晶ディスプレイに "Bridge Bypass" と表示されます。

### ● Crossover Mode (クロスオーバー モード)

クロスオーバーモードを使用するときは、チャンネル1にローパスフィルターを、チャンネル2にはハイパスフィルターを設定してください。

まず以下の項目を確認してください。

1. 入力チャンネルのみを使用します。標準フォーンコネクタ、XLR コネクタ、RCA コネクタのいずれかを使用して音声信号を入力します。
2. スピコン、バナナプラグ、先バラケーブルのいずれかを使用してスピーカーに接続します。



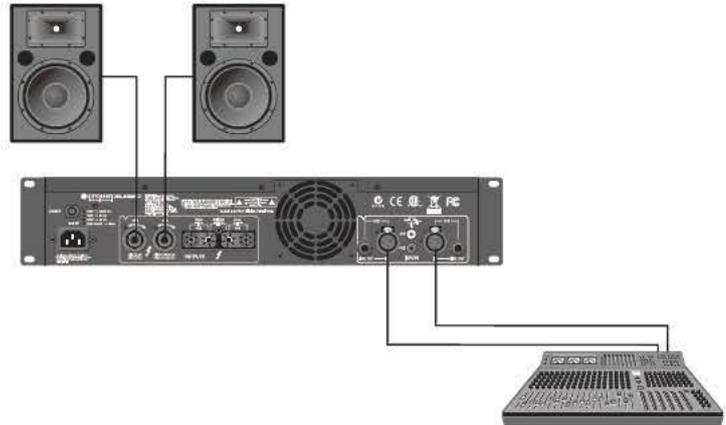
#### 『クロスオーバーモード』の簡単な設定方法

1. 液晶ディスプレイに "Amp Mode<More>" と表示されるまで、"Mode/Menu" ボタンを約3秒間長押しします。
2. "Mode/Menu" ボタンを押して、アンプのモードを設定します。
3. 液晶ディスプレイに "Input Y" と表示されるまで、"Next" ボタンを押します。"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。
4. 液晶ディスプレイに "XOVER" と表示されるまで、"Next" ボタンを押します。"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。
5. "Previous" または "Next" ボタンを押して任意のクロスオーバーポイントを設定します。
6. クロスオーバーポイントを決めたら、"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。液晶ディスプレイには、"Input Y XOVER" と表示されます。

## ■ クイックスタートガイド (続き)

### ● HighPass Mode (ハイパス モード)

ハイパスモードを設定したときは、選択された周波数でチャンネル1とチャンネル2にハイパスフィルターがかかります。



まず以下の項目を確認してください。

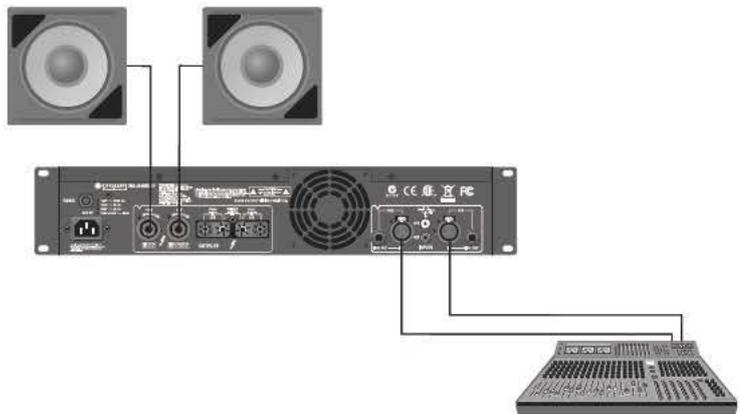
1. 標準フォンコネクター、XLRコネクター、RCAコネクターのいずれかを使用して左右の音声信号をチャンネル1とチャンネル2に接続します。
2. スピコン、バナナプラグ、先バラケーブルのいずれかを使用してスピーカーに接続します。

#### 『ハイパスモード』の簡単な設定方法

1. 液晶ディスプレイに "Amp Mode<More>" と表示されるまで、"Mode/Menu" ボタンを約3秒間長押しします。
2. "Mode/Menu" ボタンを押して、アンプのモードを設定します。
3. 液晶ディスプレイに "Stereo" と表示されるまで、"Next" ボタンを押します。"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。
4. 液晶ディスプレイに "HighPass" と表示されるまで、"Next" ボタンを押します。"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。
5. "Previous" または "Next" ボタンを押して任意のクロスオーバーポイントを設定します。
6. クロスオーバーポイントを決めたら、"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。液晶ディスプレイには、"Stereo HighPass" と表示されます。

### ● LowPass Mode (ローパス モード)

ローパスモードを設定したときは、選択された周波数でチャンネル1とチャンネル2にローパスフィルターがかかります。



まず以下の項目を確認してください。

1. 標準フォンコネクター、XLRコネクター、RCAコネクターのいずれかを使用して左右の音声信号をチャンネル1とチャンネル2に接続します。
2. スピコン、バナナプラグ、先バラケーブルのいずれかを使用してスピーカーに接続します。

#### 『ローパスモード』の簡単な設定方法

1. 液晶ディスプレイに "Amp Mode<More>" と表示されるまで、"Mode/Menu" ボタンを約3秒間長押しします。
2. "Mode/Menu" ボタンを押して、アンプのモードを設定します。
3. 液晶ディスプレイに "Stereo" と表示されるまで、"Next" ボタンを押します。"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。
4. 液晶ディスプレイに "LowPass" と表示されるまで、"Next" ボタンを押します。"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。
5. "Previous" または "Next" ボタンを押して任意のクロスオーバーポイントを設定します。
6. クロスオーバーポイントを決めたら、"Mode/Menu" ボタンを押して、決定します。液晶ディスプレイには、"Stereo LowPass" と表示されます。

## ■ クロスオーバー & リミッター

### ● PureBand™ クロスオーバーシステム

PureBand™ クロスオーバーシステムは、24dB/oct の Linkwitz-Riley のフィルターを採用しており、50 Hzから 3kHz の間で 1/12oct ごとにクロスオーバーポイントを設定できます。

#### クロスオーバーポイント

50Hz, 53Hz, 56Hz, 59Hz, 63Hz, 66Hz, 70Hz, 74Hz, 79Hz, 83Hz, 88Hz, 94Hz, 99Hz, 105Hz, 111Hz, 118Hz, 125Hz, 132Hz, 140Hz, 149Hz, 157Hz, 167Hz, 177Hz, 187Hz, 198Hz, 210Hz, 223Hz, 236Hz, 250Hz, 265Hz, 281Hz, 297Hz, 315Hz, 334Hz, 354Hz, 375Hz, 397Hz, 420Hz, 472Hz, 500Hz, 530Hz, 561Hz, 595Hz, 630Hz, 667Hz, 707Hz, 749Hz, 794Hz, 841Hz, 891Hz, 944Hz, 1.00kHz, 1.06kHz, 1.12kHz, 1.19kHz, 1.26kHz, 1.33kHz, 1.41kHz, 1.50kHz, 1.59kHz, 1.68kHz, 1.78kHz, 1.89kHz, 2.00kHz, 2.12kHz, 2.24kHz, 2.38kHz, 2.52kHz, 2.67kHz, 2.83kHz, 3.00kHz

#### 4 つのプリセットモード (p.5-7 「クイックスタートガイド」参照)

Crossover Mode (チャンネル 1 = LPF、チャンネル 2 = HPF)

設定した周波数で、チャンネル 1 にローパスフィルター、チャンネル 2 にハイパスフィルターがかかります。

※このモードにすると、自動的に “Input Y” モードになります。

LowPass Mode (チャンネル 1 = LPF、チャンネル 2 = LPF)

設定した周波数で、チャンネル 1 とチャンネル 2 にローパスフィルターがかかります。

HighPass Mode (チャンネル 1 = LPF、チャンネル 2 = LPF)

設定した周波数で、チャンネル 1 とチャンネル 2 にハイパスフィルターがかかります。

Bridge Mode (LPF か HPF のどちらか)

設定した周波数で、チャンネル 1 とチャンネル 2 にローパスまたはハイパスフィルターがかかります。

### ● Peak<sub>x</sub>™ リミッター

Peak<sub>x</sub>™ Clip リミッターは、スピーカーを保護しながら最大出力を提供します。チャンネル毎に On/OFF の設定が可能です。

※ Peak<sub>x</sub>™ Clip リミッターは、“ON” の状態で出荷されています。

Peak<sub>x</sub>™ Clip リミッターのかけ方 / はずし方

1. 液晶ディスプレイに “Amp Mode<More>” と表示されるまで、“Mode/Menu” ボタンを約 3 秒間長押しします。
2. “Next” ボタンを押すと、液晶ディスプレイに “CH1 Clip<More>” と表示されます。
3. “Mode/Menu” ボタンを押し、“Next” ボタンを押して ON/OFF を切り替えます。“Mode/Menu” ボタンを押して、決定します。
4. チャンネル 1 の設定が終わると自動的に “CH2 Clip<More>” の画面に移ります。チャンネル 1 の設定のときと同じように、チャンネル 2 の設定をします。

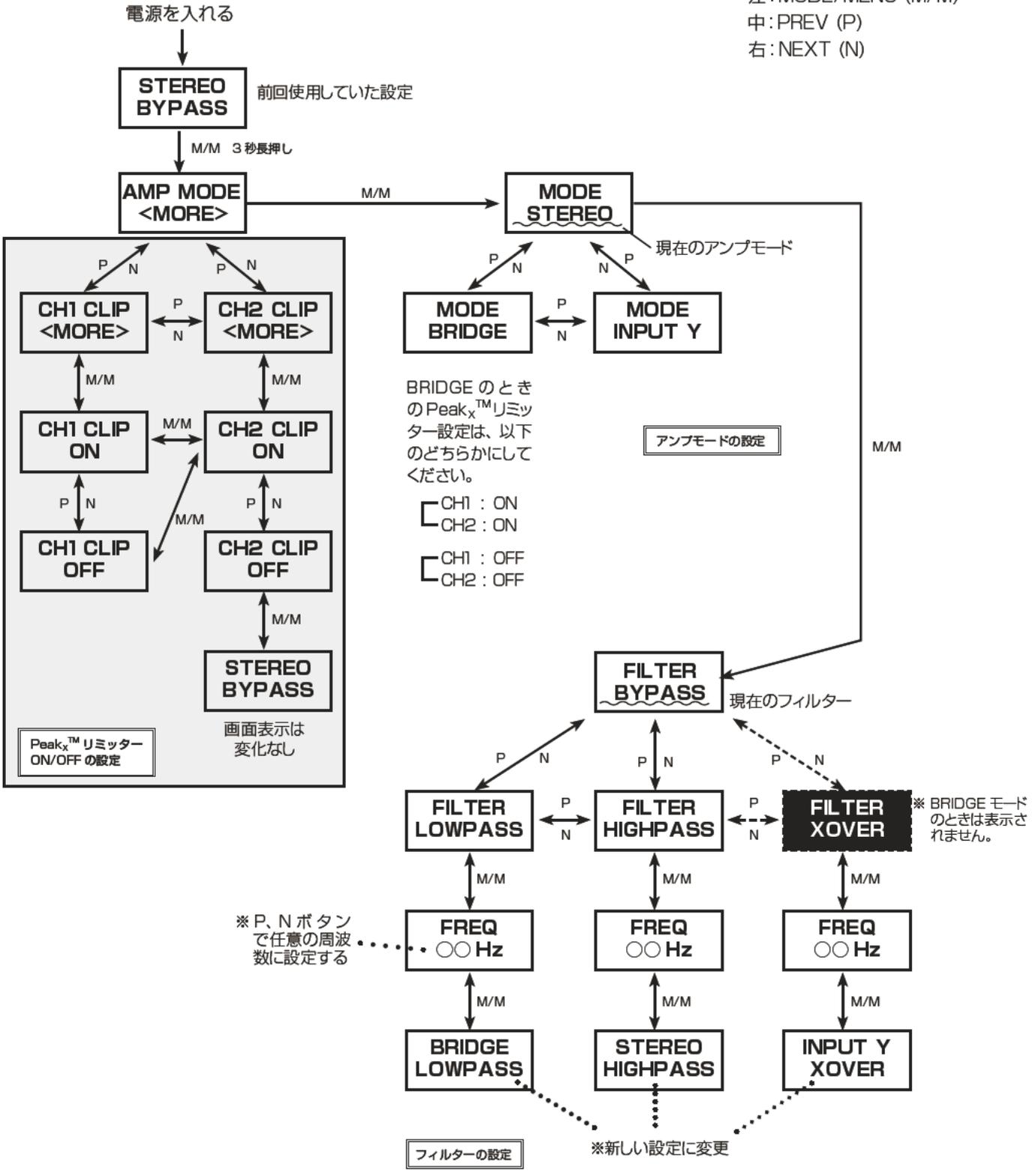
# ■ メニュー・ツリー

クロスオーバーとリミッターの ON/OFF の設定は、液晶画面とメニュー操作ボタンで行います。



**液晶画面**  
 上：アンプのモード  
 下：フィルター

**操作ボタン**  
 左：MODE/MENU (M/M)  
 中：PREV (P)  
 右：NEXT (N)



## ■ 仕様

		XLS 1000	XLS 1500	XLS 2000	XLS 2500
ステレオ出力 (1kHz, THD 0.5%)	2 Ω	550W + 550W	775W + 775W	1050W + 1050W	1200W + 1200W
	4 Ω	350W + 350W	525W + 525W	650W + 650W	775W + 775W
	8 Ω	215W + 215W	300W + 300W	375W + 375W	440W + 440W
ブリッジモノ出力 (1kHz, THD 0.5%)	4 Ω	1100W	1550W	2100W	2400W
	8 Ω	700W	1050W	1300W	1550W
周波数特性 (20Hz ~ 20kHz, 1W)	+0dB, -1dB				
S/N 比 (8 Ω, A ウェイト)	97dB 以上	103dB 以上			
THD	0.5%以下				
IMD(60Hz/7kHz, 4:1)	0.3%以下				
ダンピングファクター (10Hz ~ 400 Hz, 8 Ω)	200 以上				
入力インピーダンス (定格)	20k Ω (バランス), 10k Ω (アンバランス)				
入力感度 (8 Ω, 定格出力)	1.4Vrms				
入力コネクター	XLR, RCA, 標準フォーンジャック				
出力コネクター	ノイトリック製 4P スピコン (NL4MLP)、バインディングポスト				
インジケーター	Thermal, Clip, -10, -20, Signal, Power				
電源	AC100V, 50/60Hz				
消費電力 (IEC600065)	175W	250W	350W	425W	
通気	前面から背面への貫流通気、2.27m <sup>3</sup> /分				
空冷	強制空冷ヒートシンク、無段階可変				
寸法 (幅×高×奥行)	483 × 89 × 206mm			483 × 89 × 263mm	
質量	3.9kg			4.9kg	

※アンプの冷却ファンについて

電源投入時にファンが一瞬回ったあと停止しますが、故障ではありません。レベルを上げるなど負荷をかけた時、アンプ本体が温まると再び回転し始めます。





- この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
- この取扱説明書に記載されている商品名、会社名等は、各社の登録商標または商標です。
- AMCRON は、A Harman International Company のブランドです。

11/06

**HIBINO**

<http://www.hibino.co.jp/>  
E-mail: [proaudiosales@hibino.co.jp](mailto:proaudiosales@hibino.co.jp)

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部

〒108-0075 東京都港区港南3-5-12

TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111

北海道オフィス

〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三條1-1-20

TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ランチ

〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8

TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス

〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26

TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ランチ

〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6

TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509